

# 僅かに2・7%プラス成長 目立つ1台当たりの価格上昇

(株)矢野経済研究所が、5月から7月にかけてパチンコ産業のメーカーを対象に調査した「2010年版パチンコ関連メーカーの動向とマーケットシェア」によると、パチンコ産業が部分的に明るさも見えるが、厳しいトレンドには変わりがなかった。

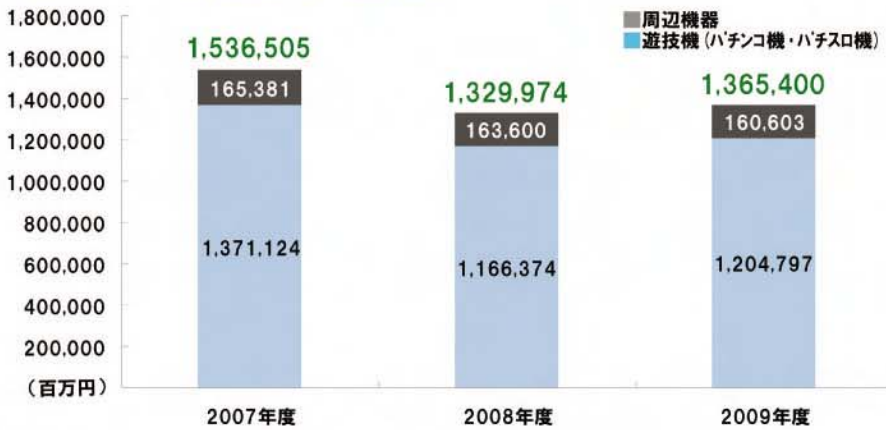
縮小傾向が続いたが、パチンコ市場の拡大が市場全体の成長を支える格好となった。

2009年度のパチンコ機市場は、販売台数こそ前年度比で減少したが、販売額は逆に増加し、遊技機1台あたりの価格上昇が目立っている。だがその反面、パチンコホールの業況は厳しさを増しているため、購入する新機種を厳選する動きも見られる。したがってパチンコ機に関しては、今後、販売台数の減少傾向がさらに強まるとみる。

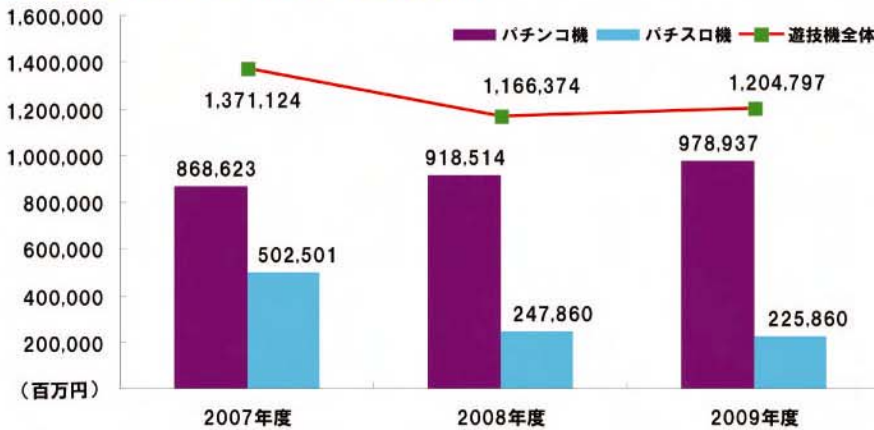
周辺機器における2009年度の市場規模は前年度比98・2%と微減で推移。「各台計数機」の市場浸透が急速に進み、また、パチンコ機部門の業績が改善の傾向にあることから、台間メダル貸機などの設備が業績を伸ばす。しかし依然としてホールの新規出店動向は鈍く、しばらくは微減傾向の市場トレンドになるだろう。

2009年度のパチンコ関連機器の市場規模は1兆3654億円となり、2008年度比102・7%、354億円増と、僅かにプラス成長となった。パチンコ機市場、周辺機器市場はともに市場規模の

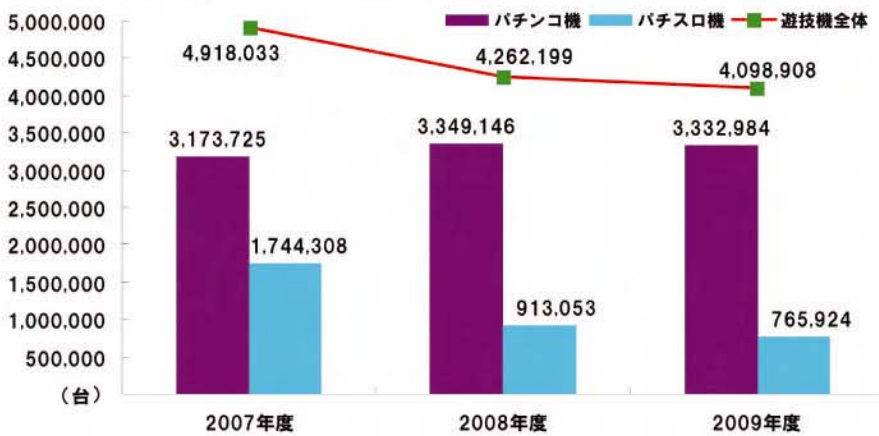
●図1 パチンコ関連機器の市場規模推移



●図2 遊技機市場規模(新台販売額)の推移



●図3 遊技機販売台数(新台販売台数)の推移



資料名: 「2010年版パチンコ関連メーカーの動向とマーケットシェア」  
 発刊日: 2010年7月30日  
 体裁: B5判 504頁  
 定価: 110,250円 (本体価格105,000円 消費税等5,250円)

# 3万人(18)学生にアピール 「リクナビLIVE」開幕★LIVEにブース

人材育成委員会委員長 井上雄太

既に、広報誌でご報告しておりますように、今年の人材育成委員会の活動の1つである「合同就職説明会とWEBサイトの構築」についての具体的な活動内容がまとまりましたので報告します。

合同就職説明会につきましては、今年11月6日(土)、7日(日)東京ビックサイトで開催される「リクナビLIVE 開幕★LIVE」に日遊協として「パチンコ業界」を知ってもらうためのブースを設置

昨年の実績では、1日約3万人の学生が来場した、就職活動の大イベントです。このイベントをきっかけに「パチンコ業界」のメーカー、ホール、販売、周辺事業についての理解を促進し、業界へ

の学生が来場した、就職活動の大イベントです。このイベントをきっかけに「パチンコ業界」のメーカー、ホール、販売、周辺事業についての理解を促進し、業界へ

の応募者を増す事を目的とし、また、一方では就職先としてだけでなく、若年層のユーザー開拓を図りたいと考えております。パチンコ業界の横断的組織の役割として学生にパチンコ業界の正しい知識と魅力も伝えて行きたいと考えております。

## 10月1日から 専用HP

この「リクナビLIVE 開幕★LIVE」の合同会社説明会に

参加するにあたり、10月1日にリクナビHP内において日遊協専用のHPが開設されます。このHPでは、パチンコ産業の歴史や社会とのかかわり等のトピックスを分

かりやすく図解にしたり、ユーザーの声、働くみなさんの声など、パチンコ業界を知らない学生に興味を持っていただけるようなコンテンツを作成しています。また、会員企業のHPとリンク出来るようにし、来場した学生、リクナビHPを見て興味、関心をもった学生がアクセスできるように致します。10月1日以降このHPは、2012年の3月過ぎまで開設します。是非、一度ご覧下さい。

なお、日遊協の合同就職説明会にご協賛(10万円)をいただいた会員企業様には、「リクナビLIVE 開幕★LIVE」当日、会社案内等のパンフレットを、ブース内に設置させていただきます。

2010年版リクナビトップページ



パチンコページ案の一部



初の試み ノンプレイヤー調査

# 未経験、辞めた人の37人

パチンコ・パチスロの未経験者やプレー経験はあるが辞めて10年以上経っている人を集めて、8月21、22日、東京・ピーアーク銀座店で「ノンプレイヤーの体験調査」が行われた。遊技機開発委員会が7月に全国で行った「パチンコ・パチスロに関するファンアンケート調査」と同様、新規開発機の参

考とするための調査で、初の試みとなる。

## 実際に体験してみて

参加したのは、パチンコ・パチ



パチンコを体験したあと、対面調査に応ずる

スロ未経験者13人と、辞めて10年以上経つ過去のプレー経験者24人の計37人で、男女ほぼ半々。未経験者は20歳代、過去のプレー経験者は30〜60歳代となっている。WEB調査会社に登録されている20歳以上の男女から抽出した。

調査は数人ずつのグループに分

かれ、21、22の2日間行われた。

未経験者のもとより、過去のプレー経験者も最近の台には慣れていないため、参加者はまず銀座のピ

ーアークホールディングス(株)本社

の会議室に集められて遊び方の説明を受けた。未経験者の女性は「な

んだか心配」とそわそわしていたが、

「わからないことがあったら、なんでもいいからこのボタンを押し

て店員を呼んでくれれば問題ないですから」と励まされていた。こ

のあと、2000円のカードを渡され、歩いて近くのピーアーク銀

座店へ。店に入ってから自由行動だったが、事前に「オレンジ色

のマークの台(1円パチンコ)で

打ってくださいね。4円の台だとすぐ(玉が)なくなるから」とアドバイスされているので、一同、1円パチンコのコーナーに一直線、一般のお客様に混じって思い思いの台に挑戦していた。

## 「音が大きい」「面白くない」

プレー時間は1時間に設定され、30分ほどで負けて戻って来た人もいたが、ほとんどが2000円で時間たっぷり遊び、景品を稼いできた人も散見された。「やっぱり

### 遊技機開発委員会

8月20日  
本部会議室  
出席委員等18人

### 簡易速報数字を提出

### ファンアンケート調査

さる7月に全国の会員ホールの

協力を得て行った「パチンコ・パ

チスロに関するファンアンケート

調査」の簡易速報数字が提出された。

それによると、平均値では大きな

変化がない中で、短時間遊技のお

客様やライト層が減っている傾向

音が大きかった」「遊び方が難しかった」という人もいたが、「面白かった」「店員さんが親切だった」など、一様に楽しそうだった。このあと対面調査が行われ、未経験者、過去のプレー経験者ごとに「パチンコに対するイメージ」「台を選ぶまでの過程」「選んだ理由」「遊技時の状況」「感想」などのアンケートに答えていた。アンケートの分析結果は、早ければ9月の遊技機開発委員会に報告される。

結果は、来年2月に予定されるファン対象のプレゼンテーション(新規開発機の試打とヒアリング会)での新たな機械の企画・開発の参

考とすることになっている。正式

な分析結果は9月中に発表される

予定。

同委員会は今年度の基本方針を、

現在のファンを減少させない遊技

機の企画・開発と、ファンの増大・

# 推進機構の「立入拒否」で質疑 ICタグ関連で報告、検討

一般社団法人遊技産業健全化推進機構の伊勢崎清事務局長が出席し、22年度第1四半期（4～6月）の検査部活動の状況を説明した。さらに最近、立入検査拒否と思われるケースが見られることから、推進機構が「立入拒否」と判断する4項目を挙げ、ホールへの周知の再徹底を要請した。この後、検査方法、その他機構の活動全般について質疑応答が行われた。（関連記事12ページに）



実機を使ってICタグリーダーの実演（遊技機健全化委員会）

ICタグ関連で報告、検討

グリーダの概要の説明があった。日電協はセキュリティ向上とホールでの日常点検の利便性のため、昨年9月から保通協持ち込みの回胴式遊技機でICタグ封印シールを使用し、現在、約30万台のICチップ封印済みの機械が市場に出ている。ことし8月からそれを読み取るリーダーの本格販売が始まったばかり。日電協がICタグ導入の経緯を説明した後、実機を使ってリーダーの扱い方の実演が行われた。

## 経営改革委員会

7月30日  
本部会議室  
出席委員等13人

### 5団体の共通認識をファンへの消費税外税告知

将来の消費税アップに備え、前回の委員会に引き続いての議論が展開された。現状ではほとんどのホールが5%の消費税を内税で処理していることから、前回の委員



消費税問題で協議した経営改革委員会

会では、外税処理に変更する際のファンへの告知時期を中心に話し合わせ、他の物品と一緒に税率アップと施行時期が決まったときとする意見が多かった。今回はそれを踏まえての議論が展開された。

ファンへの告知など外税に関して諸々の重要な行動を起こすに当たって、先ず業界、とくにホール5団体間が共通認識を持つことが大前提との意見が大勢を占めた。その上立ってファンへの告知・啓蒙、技術的・機械的対応に関する日工組・PSAなどへの協力要請などを行うが、業界内向け（ホール5団体間の意見調整、他団体への要請打診）、業界外向け（ファンへの告知）で別々のプロジェクトチームを組んで研究する必要がある——などの意見が出された。

消費税問題に関しては、昨年度、明日の経営を考える委員会・消費

### 貯玉補償基金理事会

#### 補償など3件を承認

一般社団法人貯玉補償基金（代表理事・深谷友尋日遊協会長）は8月18日、日遊協本部会議室で第27回定例理事会を開き、3つの議案を審議した。

補償実施結果確認に関する2件「事務処理規約」の一部改正に関する1件を承認した。報告事項としては、貯玉補償基金加盟状況、資金運用状況及び資金運用継続、「貯玉補償適用申請」の要件整理などが説明された。

また新しい貯玉補償基金のポスターについて3案の候補が出され、検討された。なお会議の冒頭に、8月14日に亡くなられた三上和幸監事を悼み、1分間の黙祷がささげられた。